

公益社団法人 私立大学情報教育協会

2020年度第1回

栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・リハビリテーション学グループ分野連携合同会議議事概要

I. 日時 : 令和2年11月4日(水) 10:00~12:00

II. 場所 : ZOOM会議室

III. 出席者

酒井委員長・原島委員・由良委員(栄養学分野)、黒澤委員長・齊藤副委員長・石川委員・西村委員・大嶋委員・徳山委員(薬学分野)、高松委員長・渡辺淳委員(医学分野)、神原委員長・片岡委員・藤井委員・花田委員・森實委員(歯学分野)、大原主査(情報専門教育分科会)、渡辺美智子主査(データサイエンス教育分科会)

事務局: 井端事務局長、中村

IV. 議事の経過

事務局より昨年度の分野連携対話集会の実施結果と本年度当初の事業計画について説明を行った。引き続き、黒澤委員長の議事進行により各分野の委員からコロナ禍における授業の実施状況の報告を受け、今年度の対話集会開催の可否について検討を行い以下のとおり決定した。

- ・前期講義はほとんどが遠隔実施であったが、多くの大学で後期は対面との組み合わせで実施している。
- ・演習など対面でなければ困難な授業についての必要性和感染対策に苦心している状況が確認された。

また、事務局からはネット開催した他の集会の結果を踏まえ、面識がない参加者同士の集会における「対話」が困難であった複数の事例が報告された。

検討の結果、ネット開催での対話集会開催についてさらに検討すべきとの意見も出されたが、今年度の対話集会は開催を見送り、来年度開催に向けて以下の確認と検討を行うこととなった。

- (1) コロナ禍が続いていても対面方式または遠隔方式により開催する。
- (2) 可能であれば会場は大学会場とするが困難な場合、私学会館にて行う。
- (3) 対話集会の目標

ICTを活用した問題発見・課題解決型教育(PBL)の推進普及を目指して、思考力・価値創造力などを訓練するPBLの授業デザイン、学修環境としてのプラットフォームの構築と運営、PBLで身に付ける思考力等の点検・評価・助言モデルについて意見交流を通じて理解の促進と認識の共有を図る。

(4) 予定する対話集会のプログラム内容

- ① 開催趣旨の説明
- ② 話題提供: 各分野で参考となる遠隔授業、ICTを活用したアクティブラーニング(PBL含む)の紹介
 - ・遠隔授業(オンデマンド型、同時双方向型)導入の効果と課題、評価方法の紹介
 - ・対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型授業の紹介
 - ・ICTを活用したアクティブラーニング(PBL含む)の実施方法と効果・課題、又は授業モデルの提案
- ③ 意見交流: ICTを活用した問題発見・解決型授業(PBL)の推進普及に関する方策等の探求
意見交流の視点
 - ・PBL教育を推進・展開していくための課題について戦略を考える
(PBLの授業設計、学内教員の連携体制、企業・自治体等の協力体制など)
 - ・知の創造を目指すICTによる分野横断フォーラム型授業実践の方略と課題を考る。
(令和2年度実験の「法政策等フォーラム型授業」の結果をもとに議論を行う)

- ・PBL 学修環境のプラットフォームに必要な機能・運営支援体制を考える。
- ・ビデオ試問による思考力等の点検・評価・助言モデル構想の必要性を再確認し、実現性について議論する。

(クラウドを用いたビデオ試問の仕組み等のモデル構想、文系、理系のビデオコンテンツの例示、思考力等の到達度点検・評価・助言ルーブリックを踏まえた議論)

(5) 来年度の合同会議に向けた準備 (令和3年度の合同会議までに各分野で準備しておくべき内容)

話題提供：ICTを活用したアクティブラーニングの話題提供

- ・遠隔授業で効果を高めた事例の収集 (オンデマンド型、同時双方向型など)
- ・対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型授業の実例収集
- ・仮想空間と現実空間を組み合わせた授業モデルの収集

意見交流：ICTを活用した問題発見・解決型教育(PBL)の意見交流のテーマについて

なお、各分野における検討はグループメールを活用し効率的に行うことを確認した。

(6) 来年度の対話集会の日程と合同会議の日程について

対話集会は、令和4年1月下旬の土曜日をまたは日曜日を予定する。

なお、対面方式の場合は、大学会場もしくは私学会館における開催とし、オンライン方式の場合は、私学会館を配信会場とする。

合同会議は、9月中旬～10月上旬と、10月中旬～10月下旬の2回、いずれもオンライン開催による開催を予定する。